

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 秋月 康敏

山名	火打山 2462m・妙高山 2446m 縦走	山行名	個人山行
ルート	1日目：笹ヶ峰キャンプ場～富士見平～高谷 H～火打山～高谷 H 泊 2日目：高谷 H～大倉乗越～妙高山～黒沢池 H～富士見平～笹ヶ峰キャンプ場		
山行日	9月18日～19日	天候	18日曇・雨 19日晴
参加者	リーダー：秋月 康敏 サブリーダー：守口 實 男性：岡部、金本、三宅、園上、上田 女性：玉井、大谷、徳田 合計： 10名		

ルート概略図	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
笹ヶ峰キャンプ場	集		10：00	高谷池ヒュッテ	着	6：40
	発				発	
黒沢出合	着	12：48	13：15	黒沢池ヒュッテ	着	8：04
	発				発	8：15
高谷池ヒュッテ	着	13：58	14：20	大倉乗越	着	8：40
	発				発	8：50
火打山	着	◎		妙高山	着	11：10
	発				発	12：15
黒沢池ヒュッテ	着	16：30		黒沢池ヒュッテ	着	14：30
	発				発	14：45

山行報告 笹ヶ峰キャンプ場 着 18：00

1日目：火打山 スタートは曇天だったが予報では雨もあるとの事。出発地点の入口に大きな門構えがあり集合写真を撮り意気揚々とスタートした。浦安から来てる11人のメンバーと追い越され、追い越ししながら歩を進め、和気あいあいとした山歩きに満足できた。12曲がりの急騰を過ぎて、岩場も過ぎて高谷池ヒュッテ着が1時間遅れとなった。火打山へはザックをヒュッテに預け山頂を目指した。天狗の庭で雨が来て雨具装着したが、カップズボンまで付けなかった人もいた。急激な冷えと早足で歩き過ぎた事もあって、足攣りが一気に4人も出た。足攣りと急激な大雨で2名小屋へ引き返した。

2日目：妙高山 朝食が6時なので出発は6時40分になる（予定では6時出発）。黒沢池ヒュッテまで60分の予定が25分遅れ。昨日とは別世界の好天なので景色を見ながら、写真を撮りながらの歩行。予想に反して急騰続きで大倉乗越には40分遅れ。長い急坂を下って山頂へは又急騰！これは厳しかった。山頂には2時間遅れだったが、快晴に恵まれ素晴らしい景色を堪能した。集合写真と夫々思い出の写真を収め、爽やかな空気を思い切り吸い込んで昼食。下山は急坂を下り、急騰を登り少々とこずった。黒沢池ヒュッテから富士見平までの木道歩きは尾瀬の道を想わせる素晴らしい景色と紅葉に感動した。歩程8時間30分をみていたが、11時間20分かかった。ガイドブックでは体力・技術度とも★★だったが、自分達の実力も下がってきているので標準タイムの1.1倍でなく1.2倍くらい見ておく必要があるか。ガイドブックを鵜呑みにせず、netで再調査とか、経験者の意見を見る・聞くなどしていなかった甘さがあった。

反省点 1日目：ザックを預けて空身で山頂を目指すあり方(全部預けるな)、雨具装着のタイミング遅れ、転倒  
2日目：ガイドブックの標準タイム以上に時間がかかった。実力低下してるのに標準の1.1倍でしかみてなかった  
\*タイムキーパーが弱かった：朝食時間30分遅く出発時間遅れ。写真タイム多い、長い

2015.09.18~19

秋月 康敏

**火打山**：駐車場横には凱旋門ではないが、大きな

登山口参門がある。出発前に集合写真を撮った。そう云えば出発前の集合写真は初めてのよう気がする。誰もいい顔してる！門を潜ると木道が続いて、少し渡渉もあり黒沢橋を越えた。十二曲りで浦安から来てる 11 名の同年輩のメンバーに追いついた。ここから急な階段に加えて急騰と岩場、さすが日本百名山だけあって楽には登らせてくれない。富士見平を越えて喘ぎながらやっと高谷池ヒュッテに着いたのが 1 時間遅れで 4 時間かかった。ここでザックを軽くして山頂に向かった。

途中雨が来て雨具を着るが体が冷えて寒いので一気に早足で歩き出した。4 人の足攣りが同時に発生した！以前梅澤さんに貰っていたカンポウ 68 の薬を渡し、エアーサロンパス、アンメルツを刷り込んで対策した。女性は元気だ！順調に山頂めざす。山小屋へ向かう途中で大雨にあった。山の天気はこれ程にまで変るのか・・・と思った。

**反省点**：大雨になりズボン置いてきた人はずぶ濡れだ。予定では標準の 1.1 倍の 6 時間半の行程を組んだが、7 時間半かかり計画の甘さがあった。これからは 1.2 倍～1.3 倍みる必要があるか。

**妙高山**：6 時出発の予定をしていたが、山小屋

の朝食が 6 時だったので 6 時 40 分出発になった。雨上がりの高谷池景色は紅葉で抜群だ！今日は 3 人が途中下山すると云ってたが、タベ早くから寝たので足攣りも治まり体力回復している。ストレッチ運動を済まして、妙高山踏破を一緒にしよう！とゆっくり歩き出したら、昨日の弱気虫は無くなった。景色を見ながら歩こうの掛け声もあり、写真タイムが多くなった。心がうきうきして、会話も弾み、全員顔つきが違う！やっと妙高山が見えた・・・との声がある、その先にどんな紅葉の景色に出会うのか！急騰をよじ登り、急坂を文句を云いながら注意深く下る、山登りの醍醐味を堪能した！

連日 25000 歩の山歩きだった。

**反省点**：景色に見とれ、写真タイムを多く取り、又実力の低下もあるのか、下山が 18 時になった 3 時間後れとなった。（山小屋出発が遅かった、タイムキーパーできなかった）



頭上に火打山・妙高山登山道の看板

以上梅澤さんに貰っていたカンポウ 68 の薬を渡し、エアーサロンパス、アンメルツを刷り込んで対策した。女性は元気だ！順調に山頂めざす。山小屋へ向かう途中で大雨にあった。山の天気はこれ程にまで変るのか・・・と思った。

**反省点**：大雨になりズボン置いてきた人はずぶ濡れだ。予定では標準の 1.1 倍の 6 時間半の行程を組んだが、7 時間半かかり計画の甘さがあった。これからは 1.2 倍～1.3 倍みる必要があるか。

**妙高山**：6 時出発の予定をしていたが、山小屋

の朝食が 6 時だったので 6 時 40 分出発になった。雨上がりの高谷池景色は紅葉で抜群だ！今日は 3 人が途中下山すると云ってたが、タベ早くから寝たので足攣りも治まり体力回復している。ストレッチ運動を済まして、妙高山踏破を一緒にしよう！とゆっくり歩き出したら、昨日の弱気虫は無くなった。景色を見ながら歩こうの掛け声もあり、写真タイムが多くなった。心がうきうきして、会話も弾み、全員顔つきが違う！やっと妙高山が見えた・・・との声がある、その先にどんな紅葉の景色に出会うのか！急騰をよじ登り、急坂を文句を云いながら注意深く下る、山登りの醍醐味を堪能した！

連日 25000 歩の山歩きだった。

**反省点**：景色に見とれ、写真タイムを多く取り、又実力の低下もあるのか、下山が 18 時になった 3 時間後れとなった。（山小屋出発が遅かった、タイムキーパーできなかった）



高谷池ヒュッテからの景色 紅葉満開



妙高山・火打山登山は3回目の挑戦でした、昨年、山友達と企画しましたが、私の都合で断念、今年も同じ仲間と行こうとしたが友達の都合で断念したときに守口さんからこの企画を教わり、申し込みました、結論から申し上げますと、前2回の計画を断念しておいて良かったです、この2連山登山、正直言って大した登山ではないだろう（難しさ、体力的に）と見縊っておりましたが、実際はしんどかった事、しっかりと歩き、岩を飛び歩き攀じのぼる山でした、1日目の火打山は最初は木道が多く、自身寝不足の状態であったのであまり記憶が残ってないのですが、黒沢出会いから急坂登り、十二曲がりから岩場を通り高谷池ヒュッテまでの長く感じた事、高谷池ヒュッテから頂上を目指すときに雨具の用意を上着だけにし、レインズボン、スパッツを装着しなかったのは大失敗、天候の急変等事情が重なり頂上まで後10分くらいの地点でリーダーの判断で下山、フラフラの状態であったわたくしは大助かり、しかしそこからの下山が大変、雷が鳴るとともに土砂降りの雨、アツとの間に岩混じりの登山道は沢下りのようになり、難儀しましたが下半身ずぶ濡れで山小屋にたどり着き生きた心地がしました、晩飯のカレーとハヤシライスが腹が減っていたので美味しかった。疲れていたの食後すぐ寝てしまう、翌日は絶好の好天気、前夜は疲れがひどく妙高山登山は止めて下山しようといっていたが撤回し妙高山を目指す、天気が良いと気分も良くなり、寝不足も解消してみんなの後に付いていく、ガレ場の続く大蔵乗越までのしんどかった事、妙高山北峰についたときは思わず涙が出そうになるほど嬉しかったです、頂上からの下山路の長かった事、大小の石がごろごろする下山道は厄介でしたが時々見える秋景色が始まった山々の景色は疲れをいやしてくれました、木道でみられる池塘と草紅葉はあまりに素晴らしく感動しました、竜胆が一杯咲いている木道歩きは急ぎで過ぎましたが良かった。笹が峰登山道までの木道の長かった事、全員急ぎ足で歩きました。下山後、銭湯（普通の銭湯）で汗を落としてほっとしました、CL秋月さん、SL守口さん、三宅さんご苦労様でした、ありがとうございました、いろいろと話しかけてくださった大谷さんすごい脚力ですね、上田さん救急セット助かりました、皆で無事下山出来て良かった、強烈な思い出が残った登山でした。

## 火打山妙高山、山行感想文

2015・9/17-9/20 上田 昌宏

9/17 夜行バス京都発つ、明け方JR長野駅に着く朝食とりながら約2時間駅の付近探索する近代的な駅舎だ、コンビニ、トイレ少ない、冬季の環境を考え2fに店舗集中していた、a m8 時頃レンタカーマイクロバス小型に乗りいざ出陣だ。

上信越自動車道北上妙高高原IC下りて一路笹ヶ峰高原ビジターセンター到着、高原道路は霧が発生前方見えない安全運転操縦してくれた秋月さんに感謝、感謝、霧が発生すると天気よくなる舞鶴で経験した、その通り快晴だ。

10時頃登山開始、木道つづく富士見平分岐左折れて黒沢岳すそ通過し高谷池ヒュッテ13時頃着く。ここから問題発生、昼食後ザックデポ、ヤツケ、水、行動食携帯し往復3時間の火打山登山開始する空は雲少し、15分進んで風がでてくる冷たい風だ嫌な予感生ず、仲間に膝のトラブル3人ほぼ同時に起きる、CLと本人申告協議、小屋戻る決まる。

風やまず空黒雲生じ雨となる途中工事2か所回路あるが葦の根元10cm残した斜面で、靴ははじかれ滑り難儀する何とか雷鳥平着く、雨風激しく登山中止道が川のような。15時30分頃小屋に到着した。

妙高市営小屋だ乾燥室あるも熱発性設備ない、夕食カレーライス味は良いと思う、

今日の反省、短時間であつても天気よくても行動中は装備をはなさない。身をもつて経験学習した、明日の天候回復願ひ早めに床に就く、

高谷池ヒュッテに2時前に着いた。

これから、火打山へ3時間の行程である。先着メンバー20人ほどが先を急いでいる。早く登りたい。雨具をもって急いだ。女性陣が見えない。女性のOさん、Tさんが先に行っているとメンバーが言っていた。

遅れまいと我々も続いた。最後尾であるので、急いだ。木道の先端で大きな岩に出くわし、飛び越えて行かなくてはならない。段差が大きいので大股で、渡ろうとしたが、足にけいれんが来た。立っても座ってもおさまらない。このような痛みは初めてである。痛くて動けない。三宅さんから筋肉痛の湿布薬を投げてもらって多く塗りつけた。足が痛くて動かない。前にいる3人(守口、園上、三宅)に「これ以上進めない。皆さんに迷惑をかけるだけである。小屋まで戻ります。」と伝えた。

小屋で待っていると、雨が降ってきた。土砂降りの時もあった。皆はどのように対処しているか、心配であった。そのうち皆がずぶぬれになって帰ってきた。

前日の夜行バスで、長野へは早朝に到着した。寝不足・足を延ばせない。座ったままである。

今日は、木道・大きな岩場を乗り越えての登山道で、思ったより相当な疲れがあったのか、事前に筋肉痛の薬を塗っておくべきであった。また、ミネラルの多い飲料水にすべきであったか、反省している。

翌日は、妙高山に行かずに、来た道を下山するつもりであったが、皆が行くので、黒沢池ヒュッテまでは行きたいと思って、朝の6時半から歩き出した。

ヒュッテに着いたときは、昨日から何回も筋肉痛の薬を塗っているので、何とか歩けそうである。

ヒュッテ・大倉乗越・山腹のトラバース(笹の茎で滑って、危ないところを守口・園上さんに引っ張ってもらった。)川を越えて岩の多いきつい登りを超えたところが妙高山頂上であった。いい天気であったので、大勢の人が喜んでいて。

我々も天気が良く、素晴らしい山頂に出くわし、やっとここまで来たという満足感でいっぱいであった。

下りは、来た道を下山した。景色の素晴らしい木道の草原を歩いた。若い男女が、大きなテント用の荷物を担いで高谷池ヒュッテを目指していた。若い人から受ける印象は、いいものだ。

20年ほど前に職場の仲間(いつもは、5月の連休に立山に登っていた。)と妙高に登ったことがあるが、今は当時のことを忘れている。その時も時間の都合で火打山には、登っていない。高谷池ヒュッテから、妙高山に行き、燕から関に下山した。今回の様な疲れは感じなかった。関では民宿でたらふく飲んだことを思い出す。

今回は、リーダーの秋月さんはじめ皆さんに大変お世話になりました。これからは、事前に処置をして、迷惑かけないようにしなければならないと思っています。

今年は日本百名山の内中禅湖の西方の奥白根山、湖に面する男体山そして戸隠の高妻山、火打山、憧れの妙高山に登りました。これらの山は全て火山帯に属し、爆発しないで、おとなしく登らせてもらったのが良かった。

以下今回の妙高山の感想を述べます。この越後の名山中の名山、その均整のとれた北峰、南峰の姿は鹿島槍ヶ岳をひと回り小さくした山容がとても美景である。頂上に至る道程では、お花畑に池塘と湿原そして早くも紅葉している眺望が私達を歓迎してくれていてとても感動ものである。全体のコース状況は鎖場、三点確保の急断崖、長い長い木道また木道だ。木道を作っている作業員にありがたい感謝の言葉を発したらオレの言葉にとっても喜んで居られました。私が最前部で皆様方に失礼ながら激をとばしあるいは休憩しながらの急登を参加者の勢いを戴き、私もガンバリ通した。あと少しで頂上の姿を見えると一段と足に力が入り少し飛ばしたのが反省点です。でも 誰も怪我なくキツイ登山だったがとても楽しい山旅でした。連日の汗で体も衣服もかなり臭くなり、とにかく長野に着けばすぐ風呂に入りたいと、強い全員の要望なので先に調査しておいた長野駅から東方10分程の銭湯に入浴いたしました。ほんとに昔風の番台のオバチャンがいて、またオバチャンも親切に反省会の案内もしてくれたし、女湯の声もまる聞こえで本当にこれも旅の楽しい思い出となりました。あらためてポイント毎の登山道の様子など、この山に行かれる方は聞いて下さい。(経験は語る)

追記 皆さん登山書を熟読して山に挑んで下さい。私は山田哲哉の「登山技術書」、丸山晴弘の「遭難のしかた教えます」、石井昭子の「ひとりで山を歩く」等を読んでいます、いかに単独登山は危険であるかと解説されています。

